

品目	県名	作型	主要品種	出荷期 期間 (ピーク)	作付面積 ha (前年比)	出荷見込み		5月のピーク(%)			主産地	作柄及び概況
						出荷総数	京浜地域向	上旬	中旬	下旬		
						千本 (前年比)	千本 (前年比)					
バラ	群馬	施設 (周年)	アヴァランチェ サムライ08 ほか	周年 (5~11月)	11.8 (97%)	901 (97%)	710 (100%)	33	33	33	前橋市 富岡市 昭和村	生育は順調であり、気温が低く経過しているため、品質の低下(ボリュームの減少等)は少ない。病害虫による被害はない。 一部生産者で出荷制限を継続しているため、出荷量は平年をやや下回る見込み。
	茨城	施設	アマダ、アバラン チェ、サムラ イほか	周年	8	270	190	35	30	35	古河市 石岡市他	産地により灰色カビが見られる。
	静岡	施設	サムライ オール4ラブ シンディ ベイブ	周年 10-12 3-5月	43 (97%)	630 (95%)	485 (95%)	30	30	40	JALみず JA大井川 JA掛川市 JA遠州夢咲	長雨により各産地出荷量は少なめで推移している。母の日後の切り返しピークも平準化されている。気温が落ち着いている為、階級発生は例年と比べると良い方(いつもの年よりも6-70cmの比率が高め)。改植が3-6月にかけて行われている為、切り始めは産地間でバラつきが見られる。その為、出荷量の急増は特段見込まれない。毎年夜令を行う産地も、7月上旬に実施したがその後夜温が低下したため休止している状況。
アルストロメリア	北海道	周年	アイスクリーム アバランジェ アーロン レモネード	周年 (5-10月)	733 (100%)	4,949 (100%)		33	34	35	岩見沢市 JAいわみざわ	・新株は9月頃から出荷予定。 ・暑さの影響が今後懸念される。 ・例年出荷本数は少ない。
	青森	周年	オルガ アルーラ ピンクサプライス	周年 (5月~8月)	1.92 (100%)	1,083 (96%)	704 (97%)	40	30	30	藤崎町	4月に価格安のためピンチ作業を行ったことから、平年より2~3週間程度出荷ピークがずれ、6月中旬から出荷増となっている。生育順調で、病害虫等も見られない。
トルコギキョウ	北海道	促成~	ハピネスホワイト	8~11月	2,207 (102%)	3,530 (107%)		22	32	46	由仁町 JAそらち南	8月の作付計画は昨年度と比較し、ややピンクの出荷割合が多い。 生育は順調。
			モンロー	8~11月				23	35	42		
			モアナLP	7~10月				0	0	100		
マキアLP			7~8月	86				14	0			
青森			セブ ホヤージュ ロジーナ	6月~11月 (9月)	4.95 (98%)	895 (103%)	537 (103%)	20	30	50	つがる市 田舎館村 八戸	【津軽地区】生育は順調で、3月定植は出荷終盤。7月中旬より4月定植の出荷開始予定。稲垣地区のみ2週間程度の遅れが見られる。 【県南地区】生育は順調で、八戸地区は7/20頃からは出荷開始となる予定。
群馬	施設 (季咲き)	ロジーナ ポヤージュ バルカン ほか	周年 (6~11月)	6.2 (100%)	165 (100%)	151 (100%)	20	40	40	昭和村 沼田市 富岡市	生育は順調であり、出荷時期・出荷量ともに平年並みを見込む。病害虫による被害はない。	

花きの県別生産出荷概況(8月見通し)

令和2年7月31日現在

出典:花き流通情報連絡協議会資料

品目	県名	作型	主要品種	出荷期 期間 (ピーク)	作付面積 ha (前年比)	出荷見込み		5月のピーク(%)			主産地	作柄及び概況
						出荷総数	京浜地域向	上旬	中旬	下旬		
						千本 (前年比)	千本 (前年比)					
トルコギキョウ	茨城	施設	レイナ, ロジーナほか	周年 (6~7月)	7	30	16	40	30	30	常陸大宮市 水戸市 石岡市他	平年並み。
	長野		レイナ系 ハピネスW コレゾ系 クラリスP	7~9月 (8月上)	4.8 (101%)	2,000 (100%)	880 (101%)	30	40	30	諏訪 北佐久 松本 伊那	曇天の影響で約1週間の生育遅れとなっているが、大きな病害虫の被害はなく生育順調。
リンドウ	秋田	露地	アキタシリーズ シナノシリーズ パステル 他	(8/上)	43.6 (102%)			70	20	10	秋田しんせい 秋田おばこ	例年と比較しても、ここまで生育適温であったことから全県的に前進傾向での出荷となっている。日照不足から全体に草丈は短い。ピークについては例年より数日早い8月3日~5日を見込む。

花きの県別生産出荷概況(8月見通し)

令和2年7月31日現在
出典：花き流通情報連絡協議会資料

品目		販売における現状と今後の見通し	
バラ	現状	国内の産地はブライダル品種、下位等級の出荷自粛、端境期によって入荷量は非常に少ない。さらに天候不順も重なった。販売単価は前年よりやや安い状況。7月20日～ケニア産、エクアドル産の再開が見込まれる(大田)。高冷地より入荷数量徐々に増量も暖地最終盤で全他の入荷数量は減少(FAJ)。需要の低迷と相場の安さで、改植する産地もあり、若干少ない気がするが、やはり単価的には高値ではなく中値で推移、特にブライダル品種の動きは低迷している(第一花き)。天候不順により、出荷は少ない。中旬から暖地産も休みに入る所もあり、高冷地産主体の入荷(世田谷)。	
	見通し	大田花き	持続給付金等を申請する生産者がいる等、入荷量は前年より少ない見込み。国内産地が減少する中、ケニア産、エクアドル産の集荷を予定。
		FAJ	高冷地主体の入荷。ブライダルは少なく販売やや苦戦。輸入は昨年並み程度を予想。
		第一花き	全国的に周年産地が多い品目であり、品質格差により単価も変わるであろうが、イベントの低迷が続く中やはり厳しい販売になりそうである。
		世田谷花き	高冷地産中心の販売。数量は減少。
アルストロメリア	現状	全国的に曇天が続き、出荷量が減少したことで、上旬は葬儀用の問い合わせが多かった。7月盆後は、引き合いは落ち着いたが、数量は少ない状況が続いた(大田)。長野・山形などより入荷。入荷数量は昨年並み程度も引き合い強く相場堅調(FAJ)。高冷地中心の販売となる。一時荷物が集中したが、新盆需要あたりから落ち着く、動きはよい(第一花き)。昨年より出荷減少。やや強めだが、業務中心の動き(世田谷)。	
	見通し	大田花き	8月に向け、北海道、山形と数量増加していく予定。愛知・長野は数量横ばい。8月盆需要、葬儀需要中心の引き合いとなる。
		FAJ	引き続き長野・山形などより入荷。コロナ禍で改植多く昨年よりやや少ない入荷を予定。
		第一花き	高冷地中心であり例年より若干少なめの入荷量になりそうである。
		世田谷花き	引き続き少ない。
トルコギキョウ	現状	千葉が数量のピークを迎えたが、長野、山形は曇天の影響から、徐々に増加した。6月末から品薄感があつたことと、7月盆需要も重なり、堅調な取引となった(大田)。福島・長野・宮城など高冷地主体の入荷に。安定した相場での販売続く(FAJ)。近在産地から高冷地までまだ切り替えのできない品目である。新盆での引き合いは強まるがその前の相場は安い。業務需要の低迷が厳しい状況である(第一花き)。長野・千葉・福島県などからの入荷。昨秋の台風の影響もあり、例年より入荷少なめ(世田谷)。	
	見通し	大田花き	長野、山形、福島が纏まり、岩手、青森、北海道も徐々に増加してくる。8月盆の需要に向けて、引き合いが高まる。
		FAJ	北海道も始まり、北日本揃い踏み。引き続き安定した相場での販売続く見込み。
		第一花き	高冷地中心の販売となり、それなりの動きはしそうである、各産地重ならなければ、相場の維持もできそうである。
		世田谷花き	北海道産が、最盛期を迎え、入荷潤沢。
りんどう	現状	秋田・岩手は例年より出荷スタートが早いですが、7月盆向けには岩手でやや遅れた地域もあり、中旬以降 岩手中心に昨年以上の入荷量となった。盆明けの取引も昨年以上は底支え出来た販売展開。下旬より岩手は、8月盆向けの出荷調整が始まる(大田)。岩手・秋田・栃木などより入荷。新盆の月らしく安定した相場での販売続く(FAJ)。高冷地中心の入荷。今年は長い物が出にくく、超早性と早性が同じ生育。また、下の花は咲くが上の花が咲かない状況である。栃木は7月で終了、岩手・山形・長野・北海道は7月20日頃から増えだす予想(第一花き)。東京盆に向けて、東北からも集まるが、需要期後も多く、相場崩す(世田谷)。	
	見通し	大田花き	岩手北部地域で、やや前進開花傾向にあるが、概ね大きな遅れはない状況。秋田も順調な生育状況で推移。概ね例年並みの取引が見込まれる。
		FAJ	秋田・岩手中心の入荷。今シーズンは需要期にある程度ハマる生育。ロットのまとまった入荷に。
		第一花き	干ばつ傾向の影響で、エゾ系、ながの・しなのと前進気味。チース同様に引き合いが強まる見込み。9月彼岸までは動きはありそうである。
		世田谷花き	8月盆に向けて、注文多数。中旬まで強く、下旬は弱い。